エステティック営業施設 衛生管理のポイント

エステティック営業施設における衛生管理は、細菌やウイルスなど（細菌類）を外から持ち込まないこと、持ち込まれた細菌類を速やかに除去または退治することです。サロンは、人の出入りが多く細菌類が持ち込まれますので衛生管理（持ち込まれた細菌類を速やかに除去または退治する）が必要です。細菌類は非常に小さく肉眼では確認できませんので、一見きれいに見えても細菌類が検出されることがあります。ですから、清潔そうに見えても決められた手順で行うことが大切です。

●衛生管理の手順や方法を決める

一番簡単な衛生管理は、お客様の皮膚に接するタオルや器具類すべてを使い捨てにすることですが、使用感やコスト面で現実的ではありませんので、一度使用したタオルや器具類はきちんと洗浄し、消毒します。環境面では、手すりやドアノブのような素手でよく触るところは特にきれいにする必要があります。これらのことを毎日もれなく実行するためには以下の体制を整えることが重要です。

衛生管理責任者を決める	**衛生管理責任者の主な役割** ・衛生管理が適切に実行されるよう監督する。 ・従業員の健康状態を常に把握し感染症のおそれがあるときは施術を行わせない。 など
衛生管理マニュアルを作成する	**衛生管理マニュアルの内容**（施設設備や施術内容に応じて作成する。） ・清掃のタイミングや手順 ・施術室内の管理方法（顧客入れ替わりの際の清掃等） ・使用済みタオルや器具類の保管方法及び洗浄、消毒の方法 ・消毒済みタオルや器具類の保管方法　など
衛生管理チェックシートを作成する	**衛生管理チェックシートの内容**（毎日の漏れなく実施し、記録するためことを目的に作成する。） ・従業員の健康状態（手指の傷、下痢、発熱等） ・清掃すべき場所（ドアノブなど人が良く触るところ、水回り設備等） ・使用済み器具等の洗浄消毒　など

●清掃

清掃は、サロンを清潔に保つことを目的に行いますが、同時に外から侵入した細菌類の除去にも役立ちます。

★入口・待合室・廊下など

ごみを除去し汚れをふき取ります。このとき、ドアノブや手すりなど人が良く触るところはきれいに拭き取ります。

★手洗い設備・入浴施設・トイレ

ごみを除去し汚れをふき取ります。水まわりは、水滴が落ちやすいのでこまめに拭き取ります。トイレは、細菌類が多くなりがちですので1日数回清掃します。

★施術室・更衣室など

ごみを除去し汚れをふき取ります。特にベッド回りの床にこぼれた化粧品などの汚れに注意します。このとき、ドアノブや手すりなど人が良く触るところはきれいに拭き取ります。ベッドのヘッドレストや機器類のスイッチなどは消毒液で拭き取ります。

●洗浄・消毒

お客様の皮膚に直接触れるものは基本的にお客様一人ずつ洗浄、材質にあった適切な消毒が必要です。洗浄できないものは、エタノールなどで拭き取ります。使用済みのものは、他のお客様の再度使用してしまわないように使用済み専用の容器を用意します。

お客様の皮膚に接する器具類
タオル・機器のアタッチメント・スポンジパフ・洗顔ブラシ・ハケ　など

洗浄・消毒の終わった、タオル・器具類は、扉付きの棚又は蓋つきの容器に保管します。

●水回りは細菌類の天国!

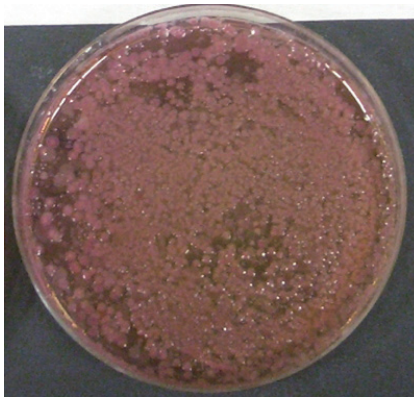
サロンの水回りから、細菌類が検出され、それらがサロンの施術室等他の部分に広がっている事例がありました。

原　因

細菌類の繁殖は、水分が必要です。水回りを濡れたままにすると細菌類が繁殖します。写真は、水道のハンドル部分ですが、細菌類が繁殖している水回りを手で触ってそのままハンドルを触ったか水回りを掃除した雑巾を消毒しないまま掃除し塗り広げてしまったことが考えられます。

対　策

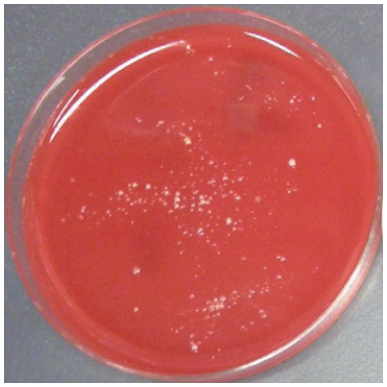
水回りは、水が飛び散りやすく雑巾もしくはペーパータオルを使用し、こまめに水分を拭き取り、乾燥させた状態を維持しましょう。



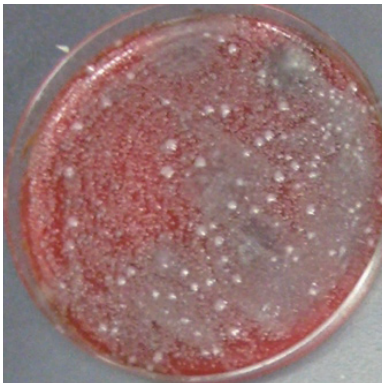
水道のハンドル部分 ふき取り調査

●使用後の雑巾は消毒、乾燥を!!

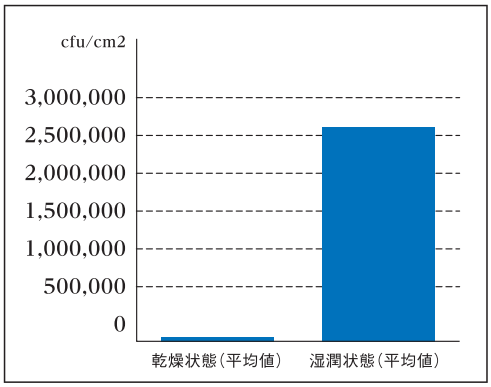
使用後の雑巾は、きちんと消毒乾燥させることが大事です。使ったまま放置した雑巾、特に濡れたままでは、かなりの数の細菌類が繁殖します。翌日そのまま掃除をすると掃除した部分が汚染されます。人工的に細菌を付着させた雑巾では、乾燥状態に比べ濡れたまま放置した雑巾は、細菌数が10,000倍から100,000倍に増えていました。



使用後乾燥させた状態の雑巾



使用後濡れたまま放置した雑巾



人工的に細菌を付着させた雑巾の細菌数

雑巾使用の問題点

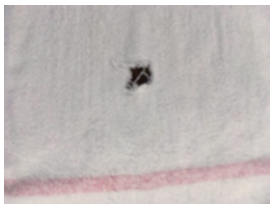
1）生地を重ねて縫製されているという構造上、厚みのある雑巾ほど入り込んだ病原体を除去しにくい。
2）病原体を含んだ雑巾は清掃時にバケツなどで十分にすすいでも病原体を除去することができない。
3）このことから病原体が増殖している可能性がある乾燥不十分な雑巾を再使用する場合、最初に使用する場所を病原体で汚染してしまうという問題点がある。
（大澤 忠:看護技術2013-12 :59（14） p1522-1524）

改善策

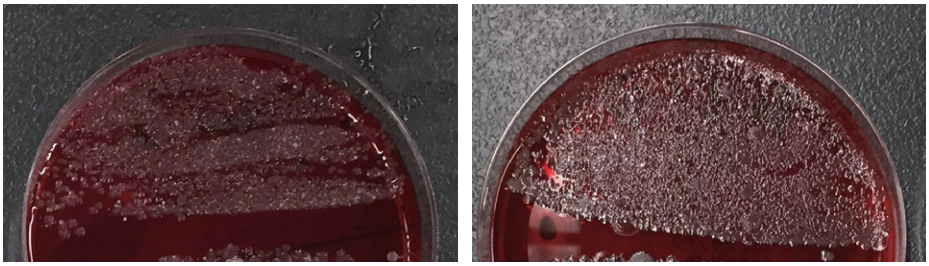
1. 清掃に雑巾を使用することで生じる環境汚染を予防する策
   1）清掃時に雑巾を使い分ける
   2）使用後の雑巾の管理（洗濯・消毒・乾燥）
   3）雑巾を使用せず、単回使用の清掃用品を導入する。
   （大澤 忠:看護技術2013-12 :59(14) p1522-1524 ）
2. 使用後洗浄した雑巾をよく乾かすこと、もしくは可能であればディスポーザブルの紙雑巾の使用が望まれる。（米国CDC:ヘルスケアー施設の環境感染コントロールガイドライン）

●意外と汚いスチームタオル（ホットタオル）

6施設中5施設より使用前のスチームタオルから多くの細菌が検出されました。同時に検査した保温庫（ホットキャビ等）の内部からは細菌類の検出はありませんでした。



スチームタオルサンプルサイズ



使用前のスチームタオルから検出された細菌類

そのうち高温に耐える芽胞形成菌であるBacillus属の菌が検出された。Bacillus cereusは術後においての傷口感染、敗血症の原因にもなります。

原 因	対 策
洗浄や乾燥が十分でないことが考えられます。	使い捨てハンドタオルもしくは滅菌後の使用が望ましい。洗濯を行う際は消毒薬を一緒に入れ、洗濯後は速やかに乾燥させるなどで改善されます。

●感染症の発生動向を把握しましょう!

サロンの中で感染症の蔓延を防止するためには、世間で流行している感染症の傾向を把握し、対応策を講じることが必要です。

インフルエンザなど「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」によって届出が義務付けられている感染症は、国立感染症研究所のHP（https://www.niid.go.jp/niid/ja/）で確認できます。インフルエンザの地域別流行やノロウイルスの発生状況など注意すべき感染症について常に把握し、準備するようにしましょう。